

鳥瞰図絵師・青山大介のこれまでの活動

- 1976年(昭和51年) 神戸市長田区生まれ
- 1993年(平成5年) 鳥瞰図絵師・石原正の作品を見て衝撃を受ける
- 2006年(平成18年) 「神戸旧居留地鳥瞰図2006」に着手、07年完成
- 2011年(平成23年) 「みなと神戸バースアイマップ2008」を発表
- 2014年(平成26年) 神戸市中央区内の津波避難情報板に採用
- 2020年(平成32年) 「わたしたちの神戸4年」副教材表紙絵。神戸市教育委員会
- 2022年(令和4年) 県立兵庫津ミュージアム・ひょうごはじまり館に作品常設展示
- 2023年(令和5年) 神戸市文化奨励賞受賞
- 2025年(令和7年) 「みなと神戸バースアイマップ2025」震災30年改訂

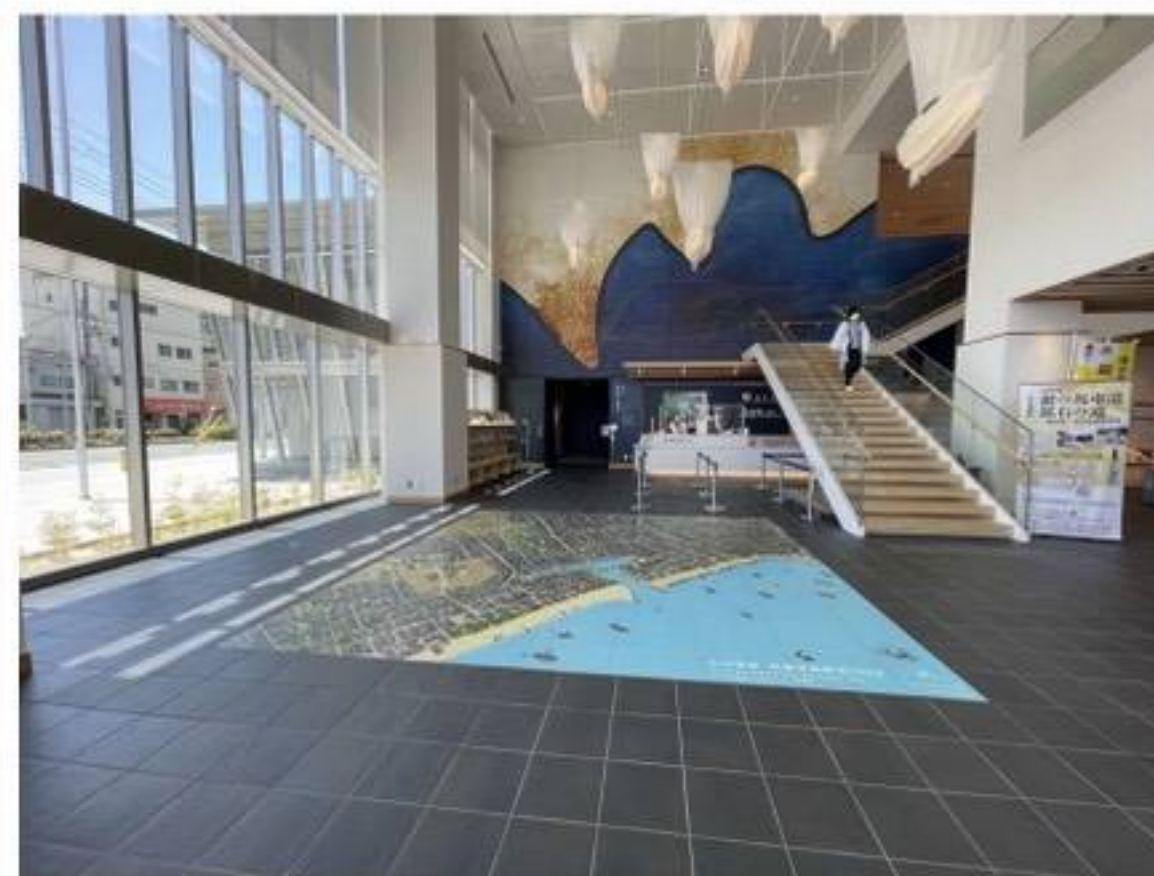
作者近影



作品活用例・津波避難情報板



わたしたちの神戸4年 副教材



県立兵庫津ミュージアム
幕末の鳥瞰図常設展示

空撮、地上取材を重ねて建物の階数・窓の数・空調機
街路樹、あるものをすべて描ききる。
アクソノメトリック図(軸側投影図)を用いて都市を描く
日本では数少ない絵師

鳥瞰図、写真やGoogleマップとの決定的な違い

空撮写真やGoogleマップなどの3D画像は、手前部分と奥（遠方）とは見え方が変わる。奥（遠方）になるほど隠れる部分が多くなる



北野異人館街航空撮影
2026年3月（作者撮影）



@Google MAPより

鳥瞰図では描画範囲内は遠近感がなく、全ての建物が均等均質に表現することができる
彩色作業の過程で地区内の歴史的建築物を強調することも可能で、地区を初めて訪れる人にも理解しやすい



綿密な現地取材と「まちの記録（記憶）」としての重要性

青山が重ねた丹念な現地取材

●神戸北野異人館街の航空撮影を実施(2026年3月) 約400枚

●地区内すべての路地を踏破して建物を撮影(2026年3～4月) 約7600枚



@神戸絵図1981年 鳥瞰図絵師・石原正 作

左の作品は、1981年(昭和56年)の神戸を描いた鳥瞰図作品です。神戸ポートアイランド博覧会が開催された年の北野異人館街が詳細に描かれている作品で、震災前の貴重な姿が絵図中にあります。

青山はこの作品と同一角度で、45年の歳月を経た神戸北野異人館街の姿を描き残すことで、今を生きる市民や数十年先の未来を生きる市民へ描き残したいと強く考えております。

まちの変化を定点对比する

いまの姿を未来へ残し伝える

緻密な資料の上で作成される価値

明治9～10年の測量を元に発行された「兵庫神戸実測図」は測量精度が非常に高く、現代の地図と重ね合わせた際にズレが少ない。明治初期の北野地区の様子が現代の鳥瞰図を描く際のベースとして活かすことが出来る。

遠近感のない「アクソノメトリック図」にしか出来ない利点。

鳥瞰図制作の際に重伝建地区の範囲だけを彩色することや、歴史的建築物のみを着彩すること。レイヤーを工夫することで明治初期の北野地区を意識することが出来る。

全国他の重伝建地区では出来ない、唯一のまちの成り立ちを意識することが出来る取り組みではないかと考えています。



明治14年・兵庫神戸実測図より



地形図を重ねる・歴史的建造物に着彩



重伝建地区に着彩